

## ヴァリー・ハーゼ (Wally Hase)

フライブルク生まれ。1986年、アメリカでワールドユースオーケストラに奨学生として参加した後、同年シュトゥットガルト音楽大学に進学、カール・フリードリヒ・メスに師事。その後、ジャン＝クロード・ジェラル、オーレル・ニコレの各氏に師事。

ルートヴィヒスブルク祝祭管弦楽団の団員として中国、日本、南米ツアーに参加。1989年にはニュージーランド国際芸術祭に出演する。1990年、バイロイト リヒャルト・ワーグナー協会の奨学生に選ばれる。1990年から1993年までは、カールスルーエのアンサンブル13およびヘルムート・リリング（指揮）率いるシュトゥットガルト・バッハ・コレギウムの団員としても演奏活動を行う。

大学在学中、22歳でシュターツカペレ・ワイマール（ワイマール国立歌劇場管弦楽団）のソロ・フルーティストに就任、2009年まで同職を務める。2008年からは、カメラータ・ザルツブルクでも定期的に演奏している。

オーケストラのソロ・フルーティストとしては、この他にもシュターツカペレ・ドレスデン（ドレスデン国立歌劇場管弦楽団）、バーデン＝バーデン・フライブルク SWR 交響楽団、ライブツィヒ MDR 交響楽団、ケルン WDR 交響楽団、アントワープ交響楽団等で演奏した。

さらに、コンチェルトのソリストとして、カメラータ・ザルツブルク、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、フォルクヴァンク室内管弦楽団、ロベルト・シューマン・フィルハーモニー管弦楽団等と共演。室内楽奏者としても、トーマス・ミュラー＝ペリング（ギター）、ソフィア・ハーゼ（ピアノ）、マンデルリング四重奏団と共演するなど、多方面で活動している。また、ドイツ文学者ヤン＝フィリップ・レームツマと「音楽と詩 (Music & Lyric)」プロジェクトにも取り組む。

ソリスト、室内楽奏者、様々なアンサンブルの創設メンバーとして精力的に活動するのみならず、CD録音やテレビ、ラジオ制作等にも携わり、音楽家として幅広く活躍。2006年にはドイツ・レコード批評家賞、2007年にはレオポルト賞受賞。

指導者としては、2000年にワイマール・フランツリスト音楽大学のフルート科教授に就任し、2014年から2018年までクラクフ音楽大学でも教鞭をとった。

2018年10月、ウィーン国立音楽大学フルート科教授に就任。

ヨーロッパ、オーストラリア、南米、韓国、中国など、世界各地でマスタークラスも行っている。

ヘインズ・アーティスト。ウィリアム・S・ヘインズ／ボストンのシルバーフルートを使用している。